

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会は検閲班（内線2171、2174）。
3. その他本電の取扱い等に関する照会は調整班（内線3169）に連絡ありたい。

電信写

08-026

大 政事外外儀官
大 務務 典房
次次 審署長長
亞秘官官審署長長

〇印経外査 博代表
大大大 察
使使使研審

総総対文図厚情オ
括 審察人團在儀警史

〇報 亡 参報際内外

文 長 密 二

長 参政保対旅外

〇 長 密地中東
密地東西

北米 長 密一二保地

中南 長 密一二

欧 長 密西ソ洋
密西東

ア 長 密一二アア
一二

経 長 次総経途博
密経漁国

長 密経国
安ネ二

密海 密準

経協 長 密密開無
参調密有埋

密長 密条密規

国 長 密政密人
参軍社

科 密 科原

〇調 長 参密調
企安

総 番 号 R002341

主 管

月 8日
平成 3年 1月 8日

韓 国 発
本 省 着

重 北

外 務 大 臣 殿

柳 大 使

総理訪韓（原爆ひ爆者協会声明）

秘密指定解除
公文書監理室

第112号 秘 入至急

（以下FAX送信 SO3495-01）

F A X 信

総 番 号 R 0 0 2 3 4 2

主 管

月 8 日

平成 3 年 1 月 8 日

韓 国 発
本 省 着

亜 北

外 務 大 臣 殿

柳 大 使

総理訪韓 (原爆ひ爆者協会声明)

FAX 信 大至急

(以下FAX送信 SO3496-02)

5033496-1

往電

1/2

東京通信

声明書

日本国海部内閣総理大臣の訪韓に際し、韓国人原爆被害者一同は次のように声明する。

韓国に一番近い国は日本であり、日本に一番近い国は韓国である。この両国が互いに友好親善を保つことは、当事者である兩國の民族の幸福ばかりでなく、ひいては世界平和にもつながる大事なことである。この際、韓国人達は海部首相を温かく歓迎すべきであって決して異議をとねえるべきものではないのである。しかし悲しいかな、韓国国民達は氏の訪韓を双手を上げて歓迎する迄にはなっていない状況になっているのを遺憾に思うものである。

今日の新聞にも昨日のテレビにも、韓国被爆者の問題をはじめとして、太平洋戦争犠牲者遺族会や独立運動有功者遺族会、その他いゝろんな被害者達の抗議行動が報道されているのである。

歴代の日本政府は、形式的な政府間交渉ばかりで韓日親善は可能であるのだと錯覚しておられるようであるようだが、このようなやり方では今までの日本政府のあやまちを繰り返すばかりで百年河清を待つともいうべきである。韓日両民族のほんとうの和解を希望すれば、日本政府は被害者達の立場になって温かい気持ちで被害者達に対処しなくてはならないのである。

5003406-2

「ここで原爆被害者である私達は、昨年の海部首相の謝罪発言を踏まえ、次のように述べたい。海部首相は人道的見地からとして、四十億円を拠出することを公式に発表されたのである。これに対する被爆者たちの不満は次の通りである。

一、被爆者達が要求した二十三億ドルに対してあまりにも少ない
二、一時払いを希望したのに対し初年度（一九九一年度）十七億円だけを確認させ、残りの金額は分割して何年かかるかわからない

三、しかも、その使途に際し様々な条件をつけているようである
そこで私達は要求する。日本政府は一刻も早く四十億円を一括無条件で支払うべきである。

ところで、海部首相の訪韓に際しては、我が民族の聖地ともいふべきバコダ公園へ行かれるという。一九七〇年、西ドイツのブラント首相がポーランドのワルシャワにおいて「拝跪」を行ったことを想い出す。西独の戦後処理の真剣さに連なるものとして、私達もこれを大きく評価したい。「謝罪」に基づく真の「清算」が今こそ始まるのである。

一九九一年一月八日

韓国原爆被害者協会

会長 辛泳洙

(3)